

【収支見通しに対する実績（単位：千円／税抜表示）】

※本表における数値は、決算認定前の段階であり、速報値を集計したものであることをご了承ください。

款・項・目・節	R4年度	R5年度	R6年度			R6年度期末 自己点検 (取り組みの効果や課題等)
	実績	実績	経営計画 収支見通し	中間期 実績	期末 実績	
病院事業収益	13,655,237	12,867,591	12,826,881	6,360,496	13,565,650	<p>○医業収益のうち入院収益は、経営計画における6年度の収支見通しである70億9千万円に対して、5億8千万円増収の76億8千万円となった。その基礎的な要因は、新規入院患者数の増加と分析しているが、「手術件数の増加」と「DPC係数の向上」が相乗効果として影響しているものと分析している。手術室での手術件数の前年度比較としては、414件増加の3,865件で、手術料の前年度比較としては、約4億円増加の約20億円となっている。また、DPC係数向上については、6年5月に総合入院体制加算3、同年6月に診療報酬改定、7年1月から夜間100対1急性期看護補助体制加算、夜間看護体制加算、同年2月から診療録管理体制加算を届け出し、5年度の1.4660と比較して0.0932増加の1.5592まで向上した。これが、1日1人当たり入院収益の増加につながり、入院基本料の前年度比較としては、約4億円増加の約50億円となった。今後の取り組みとして、これまでの患者数の増加やDPC向上対策を引き続き実施しつつ、病床利用率や入院単価の改善策に注力すること、また、増加する手術件数、緊急手術など必要に応じた迅速な手術が実施できる体制整備を進めていく。 (新規入院患者数)6年度実績：10,903人、6年度目標値：10,200人(+703人)、5年度実績：10,131人(+772人) (手術件数)6年度実績：3,865件、6年度目標値：3,450件(+415件)、5年度実績：3,451件(+414件) (1日1人当たり入院収益)6年度実績：68,847円、6年度目標値：67,000円(+1,847円)、5年度実績：65,179円(+3,668円)</p> <p>○医業収益のうち外来収益は、経営計画における6年度の収支見通しである38億9千万円に対して、6,800万円増収の39億6千万円となった。主な要因として、選ばれる病院となることを目的として、地域医療連携の推進と広報活動等に取り組んだことにより、紹介数が増加したことが挙げられる。地域医療連携推進では、これまでの訪問活動結果の分析から、効果的、かつ、効率的な訪問計画を立案した。6年度は22件の訪問活動を実施し、活動前後で紹介数が増加がみられた。広報活動では、5年7月に導入した手術支援ロボットや、同年8月に開設した脊椎センター・人工関節センター、内視鏡センターやがん診療など当院の「強み」となる診療科や疾患に関する広報活動に加えて、出張講座や市民公開講座を開催し、市民向けにわかりやすく医療情報や当院の取り組みを継続的に発信した。1日1人当たり外来収益は6年度目標を達成できなかった。常勤の放射線治療医が不在となった影響は大きいと考えるが、地域医療連携や広報活動等に積極的に取り組んだことなどによる患者数の増加、また、脳神経内科や眼科などの注射料の増加により増収となった。 (1日当たり外来患者数)6年度実績：932.3人、6年度目標値：890.0人(+42.3人)、5年度実績：902.8人(+29.5人) (1日1人当たり外来収益)6年度実績：17,486円、6年度目標値：17,700円(▲214円)、5年度実績：17,413円(+73円) (紹介数)6年度実績：12,972人、6年度目標値：12,300人(+672人)、5年度実績：12,192人(+780人)</p> <p>○診療報酬の査定率改善の取り組みも進めている。毎月、委託事業者との打ち合わせで、中間期査定率は0.33%、期末期は0.34%とほぼ変わらない状況であった。ICT導入により診療報酬請求時のチェック機能強化を進めてきた。あらためて、そのチェック機能の設定をカスタマイズしなおし、臨床検査科・医療情報管理室と協力し、診療科がオーダー入力の際に警告がでるように設定した。</p> <p>○そのほか、検診事業のうち乳がん検診枠を増やした結果、5年度実績である144件・1,146,432円から、6年度は186件・1,474,928円となり、42件・328,496円増加した。</p> <p>○これらにより、収益全体(病院事業収益)は、経営計画における6年度の収支見通しである128億3千万円に対して、7億4千万円増収の135億7千万円となった。</p>
医業収益	10,646,875	11,037,378	11,307,145	5,820,772	11,988,606	
うち入院収益	6,631,380	6,867,100	7,091,950	3,746,277	7,675,683	
うち外来収益	3,701,753	3,817,875	3,890,991	1,928,116	3,959,052	
医業外収益	2,982,489	1,796,150	1,519,736	530,953	1,543,079	
うち補助金	1,629,318	448,453	33,960	0	34,444	
うち他会計負担金	1,015,841	984,266	1,004,449	491,462	995,680	
うち長期前受金戻入	234,565	266,021	409,921	0	428,702	
特別利益	25,873	34,063	0	8,771	33,965	
病院事業費用	12,536,913	13,253,908	13,393,502	5,473,770	13,997,838	
医業費用	11,834,701	12,152,357	12,796,497	5,333,414	13,174,216	
うち給与費	6,276,873	6,327,047	6,630,153	2,605,417	6,648,898	
うち材料費	2,685,897	2,887,229	2,943,275	1,560,451	3,135,616	
うち薬品費	1,542,804	1,719,546	1,752,607	888,357	1,762,045	
うち診療材料費	1,101,253	1,099,257	1,142,022	630,846	1,275,229	
うち経費	2,232,495	2,267,733	2,324,816	1,146,589	2,424,249	
うち委託料	1,485,570	1,525,792	1,530,499	784,374	1,660,237	
うち減価償却費	605,314	602,682	862,521	0	920,127	
うち資産減耗費	7,025	36,024	9,405	0	13,277	
医業外費用	641,582	677,280	597,005	49,252	716,621	
特別損失	60,630	424,271	0	91,104	107,001	
經常収支	1,153,081	3,891	▲566,621	-	▲359,152	○6年度の經常損失は3億5,915万2千円となり、経営計画の収支見通しである5億6,621万1千円と比較すると、2億746万9千円圧縮することができた。
經常収支比率	109.2%	100.0%	95.7%	-	97.4%	○また、最終経営目標である經常収支比率は97.4%で、6年度目標値である95.7%を1.7ポイント上回った。
(最終)損益	1,118,324	▲386,317	▲566,621	-	▲432,188	○6年度は診療報酬上の医業収益増と患者サービスや医療安全の向上、地域連携や広報活動の強化などにより、特に集患に注力した病院経営を推し進めたことが奏功し、經常収支比率の目標値を達成したものと認識している。
(最終)収支比率	108.9%	97.1%	95.7%	-	96.8%	○しかしながら、人件費や物価の高騰等を要因とした費用の増加が病院経営に与えるインパクトは非常に大きく、2年度から4年間継続してきた經常収支黒字経営から赤字経営に転じたことも事実である。今後も、経営計画に基づき経営改善の取り組みを進めていく。収益増の取り組みとしては、入院期間を意識した病床運営や手術室の効率的な運営、それを実現させるためのさらなる前方連携の強化や救急応需対策が課題であると分析している。また、費用面でもさらなる精査による削減・抑制に努めることで、計画期間中の經常収支黒字化達成を目指す。